

青少年もがみ

第31号 令和2年2月1日

— 発 行 —

最上地区青少年育成連絡協議会



保育園訪問ボランティア（舟形町）

便利と怠惰の間で

鮭川村青少年育成村民の会会長 水戸 一 徳



鮭川村青少年育成村民の会会長を務めております水戸と申します。現在、私を含め10名の推進員が所属する鮭川村青少年育成推進委員会にて、鮭川村及び最上地区の青少年健全育成のために日々活動を続けております。

平成から令和へと元号が変わり、青少年を取り巻く環境も目まぐるしく変化している昨今、スマホやインターネットの普及により読書をする若者が減っているように感じられます。国立青少年教育振興機構で「1か月に読む本（紙媒体）の量について」調査したところ、20代で「0冊」と回答したのが52.3%と発表されました。そして、50代では46.8%、60代でも実に44.1%の人が「月に一冊も紙媒体の本を読まない」と回答したそうです。

若者世代だけでない読書離れの現実、本を読むという文化そのものがインターネットに置き換えられていくように感じられます。その他にも、新聞はネットニュースに、テレビは動画サイトに…というふうに我々の「生活の一部になった」インターネットです。パソコンやスマホを起動するだけでたくさんの情報を閲覧することができる時代となっています。しかし、便利であることは、時に人を怠惰にさせるものであることを自覚し、新たな技術のメリットだけでなくデメリットにも目を向けてこそ、真に「生活の一部になった」と言えるのではないのでしょうか。

昨年10月に、最上地区を会場として開催された青少年健全育成県民大会での川島隆太氏の講演においても、スマートフォンを使用することで脳の発達が停滞することが語られており、衝撃を受けました。切り離すことのできないところまで進行しているネット社会ですが、家庭内での使い方に関する約束や教育機関での授業を通じて、我々大人の方から手本を示せるように働きかける必要を感じました。